

(別記)

立花地域水田農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、中央に海拔450mの飛形山を有する山間地であり、気候は内陸性気候で平均気温は15.8℃と温暖である。

こうした地理条件を活かし、山間部では多種多様な果樹が生産されている。

水田については、一部の平野部において水稻のほかイチゴ・なす等の施設園芸が盛んに行われている。しかし、中山間部の水田は小規格・不整形であり、農地保全のために作物作付けの必要性はあるものの、その作業効率や生産性に劣る。

今後は育成すべき経営体を明確化し、これを核とした生産体制を確立し、生産性の高い産地づくりを推進するとともに、農地の流動化を促進し、限られた農地を有効利用することにより収益性の高い農業経営の確立を展開する。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本として、消費者ニーズに合った地域の特性に合う品種の作付を誘導し、消費拡大を目指す。また、担い手となる経営体の育成を中心に米の消費、販売の拡大に努める。

(2) 非主食用米

当地域では、水田が小規模・不整形であり、非主食用米の作付による所得増加が見込めないため非主食用米の取組は推進しない。

(3) 麦、大豆

集落営農組織や大規模農家を中心に麦、大豆の作付を推進し、麦、大豆の産地づくりを進めていく。

(4) 野菜、花き

八女市全体において奨励作物とされているイチゴ・なす・トマト・アスパラガス・ねぎ・菊に加え、オクラ・かぼちゃ・ゴーヤ・ごま・さといも・とうもろこし・ほうれん草・雁足・落花生・きゅうり・わらび・レタス・キャベツ・みょうが・にんにく・クジヤクソウ・ソリダゴ・千日紅・洋ラン・ユリについては、立花地域の水田を活用する生産性の高い作物として産地交付金を活用して奨励していく。

具体的には、イチゴ・なす・トマト・アスパラガス・ねぎ・菊については地域の重点振興品目として位置づけ、産地交付金を活用し、H25現状24.22haを目標年のH28には48.2haに拡大し、産地化を図る。

また、他の野菜や花きについても産地交付金を活用し作付けの支援を行う。

これらの作物の奨励によって、より収益性の高い農業経営の確立を目指す。

(5) 不作付地の解消

立花町内在住者の経営水田のうち73.2haある不作付地の解消に向け、優良農地については流動化や作業受委託を図り担い手への農地の集積、推奨作物作付への転換を目指す。また条件不利地については耕作放棄地とならないように適正な保全を目指す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	215	215	180
飼料用米	-	-	-
米粉用米	-	-	-
WCS 用稲	-	-	-
加工用米	-	-	-
備蓄米	-	-	-
麦（基幹作）	2	2	2
（二毛作）	53	56	48
大豆	0.8	0.8	1.0
飼料作物	-	-	-
そば	-	-	-
なたね	-	-	-
その他地域振興作物			
野菜・花			
・いちご	9	18	18
・なす	6	12.2	12.2
・トマト	2	2.5	2.5
・アスパラガス	0.1	0.2	2
・ねぎ	4	6.2	6.2
・菊	4	7.3	7.3
・オクラ	0.1	0.1	0.2
・かぼちゃ	0.1	0.1	0.1
・ゴーヤ	0.3	0.6	0.6
・ごま	0.1	0.1	0.1
・さといも	0.1	0.9	0.9
・とうもろこし	0.2	0.4	0.4
・ほうれん草	1	1	1.1
・雁足	0.1	0.1	0.1
・落花生	0.1	0.1	0.1
・きゅうり	1	1.5	4
・わらび	1	0.7	1
・レタス	-	-	5
・キャベツ	-	0.2	0.2
・みょうが	-	-	0.1
・にんにく	1	1.4	4
・クジャクソウ	0.3	0.4	0.4
・ソリダゴ	1	1	1
・千日紅	0.1	0.1	0.1
・洋ラン	0.6	0.7	0.7
・ユリ	-	0.2	0.2

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	イチゴ トマト ナス アスパラガ ス ねぎ 菊	八女市戦略作物助成	ア	作付面積 (ha)	25.10	46.40	48.20

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。

（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い産品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組